

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的に遊べる子どものための環境作り」～豊かな表現・多様性の受容～をテーマに昨年からのプロジェクト活動を引き継ぎつつ、職員も子ども達も新たに試行錯誤を繰り返していった。「失敗」という観念をなくし「できない理由や方法を知る機会」と捉え、形に縛られない保育・教育に取り組んでいった。</li> <li>・取り組みも3年目になるため、子ども達も園庭の巨大な土山での様々な遊びを発見している。また1月から3月までの「素材を楽しむ月間」も、各学年素材自体を楽しむ活動を発展することができた。</li> </ul>
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の看護師による「保健のはなし」をきっかけに、健康やからだについて興味をもって過ごしている。</li> <li>・感染症の発症については、配信アプリで発信し、受診の際にかかりつけ医に相談・対応しやすくしている。</li> </ul>
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由な発想と活動を保障するため、保育教諭が危険を予知できるように、定期的に危険が潜んでいないか確認し、危険な遊びについては気づいた時点で、改善できるよう話し合いを持つようにしていった。</li> </ul>
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性を持っている子ども達が増え、特に味覚過敏で同じものしか口にしない子どもも増えているため、特性を踏まえたうえで、好き嫌いが無い子どもが良いというような一律な捉え方は、見直すようにしていった。そのうえで、いろんな食材に触れる・味わう機会は持っていく努力も続けている。</li> </ul>
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要なお子さんを持つ保護者とは、定期的に園長自身が懇談を持つようにしていった。またその他の保護者についても相談しやすいように事務所の入り口を開放している。</li> <li>・地域の親子もたくさん利用され、「マイ子育てひろば」試行園としての役割を担ってきた。地域の親子のよりどころとなりつつある。</li> </ul>
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な特性をもつ子どもの数が、年々増えてきている。障害ではなく、特性と捉えて障害の名前にこだわるのではなく、一人一人の子どもの困りごとは何なのかを、しっかり見極めて保育・教育していくことを一番大切にしている。</li> <li>・「みんなと一緒に楽しい。でも一緒になくてもいい」個性が輝く保育教育に視点を絞っている。</li> </ul>
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインを利用しながら、保育・教育の質を点検しつつ取り組んでいった。</li> <li>・「ほめる・認める」という考え方が浸透していったことで、職員間はもちろん、子どもに対しても結果ではなく、過程をしっかり認めていける力がつき、確実にレベルアップにつながっていると思われる。</li> </ul>
幼保こ小中の連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて地域の敬老の集いに年長児がダンスの演目で参加したことも地域としてのつながりを深めることとなった、</li> <li>・すぐ近くにある民間の乳児園とは園庭解放などで交流をしていく。</li> </ul>

<p>評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員を中心に、今年度は発表会の参観・「素材を楽しむ月間」の公開保育を実施でき、実際に話し合う機会も増えた。</li> <li>・地域としての問題意識も明確になっていった。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を読んでいく取り組みも引き続き行うことで、絵本の貸し出しが盛んになり、送迎時に親子で絵本を楽しんでもらえるように「コタツコーナー」を設置し、親子でほっこり絵本タイムを楽しんでもらえている。</li> </ul>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

<p>課 題</p>	<p>具体的な取り組み方法</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性の理解と取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も世界の人々や言語を知るコーナーを作り、展示コーナーに男の子・女の子という発想を崩すジェンダーの取り組みも継続しているが、まだ職員自身の思い込みや固定観念が根強くあるため、さらなる取り組みが必要である。</li> <li>・保護者の相談に対しても、丁寧に受け止め、共感していく職員の在り方について考える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・非認知能力の向上</li> <li>・主体的なあそびや活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙の少なさや、イメージ力の乏しさを補うためにも、引き続き絵本の読み聞かせの取り組みは必要。</li> <li>・子どもたち自身がわくわくし、主体的に遊びを作り出す環境づくりなど継続した取り組みを続けていく。</li> </ul>

令和6年（2024年）3月31日  
豊中市立 桜井谷こども園  
園長名 小川深香